

平成25年8月22日

嬉野市議会  
議長 太田重喜様

## 文教厚生常任委員会報告書

文教厚生常任委員会  
委員長 梶原 睦也

平成25年3月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会  
会議規則第107条の規定により報告する。

### 付託事件名 教育委員会の在り方について

#### 調査理由

春日市教育委員会は「現在の教育委員会制度について、教育事務局は膨大な事務処理におわれ、また、教育委員会は事務局提案をそのまま追認するだけになっている。それがそのまま学校現場に反映されているので、教育を取り巻く環境の変化に対応できていない。」とのことで、その課題を克服すべく積極的に教育委員会改革を推し進めている。

そこで、教育委員会改革により、どのような改善がなされたのか、さらには本市教育行政にとっても学ぶべき点がないかを探るために視察研修を行った。

#### 調査の概要

調査日 平成25年8月1日  
視察地 福岡県春日市役所

## 調査内容

### 【改革前の春日市教育委員会】

#### (教育委員会)

事務局案を追認するだけで実質的意思決定をしていない。  
議論の内容が学校教育分野に偏っている。

#### (教育委員会事務局)

県教委と県職員の意識を持った教職員の間にとって、両者を取り持つ教育事務所の出先機関的な意識と役割  
「教育課程や学校運営、生徒指導等は学校や指導主事の任務」  
「県からの指示がない限り従来どおり」という前例踏襲  
同質性や平等性が求められる義務教育ゆえとはいえ、他の一般行政部門とは異なり政策的業務には縁遠い存在

### 【改革後の春日市教育委員会】

#### 1 事務局の変革

- ① 予算執行権、予算原案編成権の学校への移譲(総額裁量制)
- ② 学校管理規則の全面改正(校長権限の大幅強化)
- ③ 教職員の多忙化対策の推進(提出物の削減、研究指定休止、各種会議・研修会の見直、等々)

このような取り組みにより、事務の領域に閉じこもりがちな組織風土や前例踏襲は影を潜めた。

#### 2 学校の変革

- ① 予算執行権、予算原案編成権の移譲
  - ・コスト意識の向上・予算に裏付けされた実践的プランの策定等々
- ② 校長権限の強化
  - ・主体的判断と自律的運営の促進・地域の特性に応じた学校経営等々
- ③ 多忙化対策を目的とした各種事業の見直し
  - ・形式偏重の見直し・教育長出前トーク等による教育委員会との緊密化等々

上記のような取り組みによりコミュニティスクール導入校が、平成17年度は3校だったのが、平成22年度は市内全小中校（18校）へと増加している。

また、教育委員会の予算編成時期については、これまでの予算要求が当年の2月から前年の11月に、また、新規事業提案が当年2月から前年の7月に変更となった。

### 3 その他

学校教育偏重からの脱皮として、教育委員懇談会が実施され、学校教育分野に留まらない多様な議論が出来るようになった。

- ①市長との意見交換会の定例化
- ②議会常任委員会との意見交換、相互傍聴のスタート
- ③家庭の教育力向上に向けた社会教育委員との意見交換
- ④市長、教育長とPTA連絡協議会役員との意見交換会への参加等々

## 【委員会の意見】

本市の教育行政については今後、中学校建設など教育分野の事務量は相当に増加することが予想される。また、昨今、問題提起されているいじめや体罰に関する対応の充実も今後さらに求められている。

学校現場は学力の向上はもとより社会的対応も含めより複雑な対応が迫られてくる。

春日市が行っている学校現場への権限移譲導入を行うとすれば、教育委員会事務局のスリム化や学校長に対する権限強化など、学校現場が予算も含めより自主性のある運営が出来るようになる。

この学校現場への権限移譲こそが春日市教育委員会改革の中心であり、本市教育部局においてもこの取り組みは一考の価値があるのではないかと考える。

春日市で取り組まれている教育委員懇談会については学校教育分野にとどまらず社会教育関係、福祉分野、議会の委員会などとの懇談会を開催することでより幅のある教育委員会になると思われ有益である。

嬉野市の教育行政に関してはさまざまな先進的取り組みがなされており、一定の効果は認めるところだが、春日市のように各学校ごとの予算編成権が認められればより現場に特化した取り組みとなお一層の教育成果が期待できるはずだ。さらには教育委員会の充実した情報公開も必要である。委員会会議の開催に関しては市のホームページに掲載されている。

しかし、委員会の傍聴が原則認められているにもかかわらず、その実態は関係者の参加が大半を占めているのが現状であり、もっと一般市民が参加できるような環境作りが必要である。

いずれにしても現体制の利点、欠点も含め今後の教育委員会制度のあり様について一度検討してみる時期に来ているのではないかと考える。